

宿縁

十二月号

浄土真宗
本願寺派

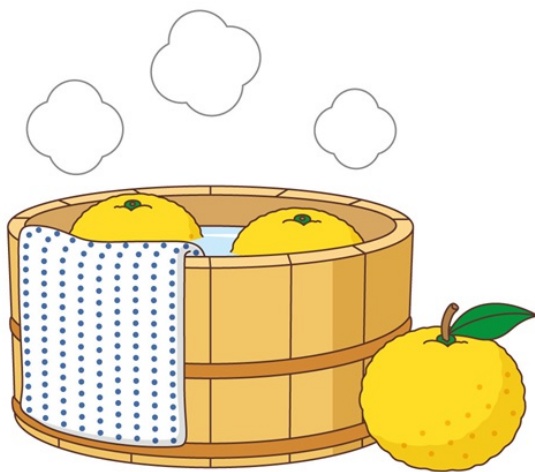
康

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

我に代わるもの

あることなし



今年もあわただしい国際情勢と社会の変動に気を取られながら、一年が経過しようとしています。

特に年齢を重ねてきますと親しい人との別れが多くなり寂しが増してきます。人間はそんな境涯にありながらも、いつまでたっても落ち着かない時が流れてゆきます。そしてわがいのちの灯が一瞬にして終わるのかと思うと、わびしさを思わずにおれません。

本願寺中興の祖と仰がれる蓮如上人(一四

〇一四九九)は、宗祖親鸞聖人の教えを平易な形でお伝えくださり、爆発的に民衆にその教えを広めた方です。いま私たちが忙しい日々を過ごしながらも、周囲では正信偈(帰命無量寿如来、南無不可思議光…)を誦し、御文章(それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、おおよそはかなきものは始中終まぼろしのごとくなる一期なり…)を聞き拝読する姿も、蓮如さまのお蔭なのです。その蓮如さまが一四九九年(明応8年)三月二十五日八十五歳でご往生される前年十一月の報恩講(宗祖親鸞聖人のご遺徳をしのび、ご恩を報謝して営む法要を勤められた折にご門徒の人たちに出されたお手紙(御文章)があります。

当時の暦は陰暦ですから現在の満年齢に直すと一歳加えた年齢となります。それを通してと丁度今の私の年齢と重なり、ひとしお感慨深く思われてなりません。

そのことからご往生なされるおよそ三か月前にしたためられた次の御文章を皆さまと共に真摯に受け止めたいと思います。その大意を現代文にすると、

『この大坂(現在の大坂城の場所)に坊舎を建てて、もう三年が過ぎました。この場所に住む理由は、残された人生を心やすく過ごし、栄華栄耀を誇ったり、ぜいたくな生活をしたり、また花鳥風月を楽

しむためではありません。人々がこの上ない仏道を完成するために、他力の信心を決定し、念仏を申す人が一人でも増えてくださることを願うてのことです。私は当年で八十四歳の高齢を迎えますが、思えばまことに不思議なことでもあります。このように生きられたことは、浄土真宗の法義にかなうことであり、宗祖親鸞聖人にお慶びいただける生きかたではないでしょうか。自らの人生でこれに過ぎる満足はありません。限りある「いのち」を思うにつけて、どうか、ともどもに往生の本意をとげる身となれることを願っております。』

(御文章四帖第十五通)

さて、私たちは自分の人生に対して、意識したことがあるでしょうか。足を止めて深く考えてみたことがあるでしょうか。多くの人が「そんなこと考えてみたところでしょうがない」、「そのうちにね」の答えが返ってきます。

私たちはこの世に誕生して以来、日々この眼は外を見えています。そして生き食べるために有利な方法を探し、賢さを身に着け、他人よりも少しでも多く、勝つための方策を迫及して止むことはありません。

それは勝つか負けるか、多いか少ないか、優れているか劣っているか、という比べ合う世界で、どこまで行っても落ち着かない満足できない生き方です。

最近のテレビやマスコミの情報はそれが一目瞭然とわかります。

もっと便利な快適な生き方をしないと損であるかのように、煽りの文化そのものです。

それがまた巧みな言葉や方法で、いうなれば人をあざむいてこれが豊かで幸福だと決めているようです。

幸福とは、こういうものだと思し付けるものでしょうか。

また、これでもかこれでもかと無限に食欲を駆り立てようとする最近の傾向にはあきれるばかりです。人間ほど強欲で恥知らぬ生き物はありません。無益に生き物を殺し人間中心の考え方こそ、自らの首を自ら絞める結果となることを覚悟すべきでしょう。

「わが人生は誰も、代わってくれない」と大無量寿経のまことの言葉が示しています。老いも、病も、死ぬのも私自身のことです。代わってくれる人はいません。その解決はまた薬やそれを勧める医者ではありません。老病死は一時の気休めでは根本的に解決するものではありません。

それは真理に目覚めた仏の言葉に出会う(聞く)しかありません。

『我建超世願、必死無上道』(真理に目覚めた阿弥陀仏は世間を超えた願を建て、必ずすべての人びとを苦悩から解放させる仏道に導びかん)と、大無量寿経にあります。

「わが欲望をくすぐる世間の情報に惑わされるのではなく、私を根本的に変換せしめる仏の言葉をわれ人一同に信じてこの道を歩ませていただく」との蓮如上人のおさとしです。

私を生かしめる大地には、見えない深く広い根があることを忘れてはなりません。物事は私から始まって私で終わるなどと考える近頃の世のなかの傾向を強く憂います。

身近な人にどうぞこれを伝えてください。

【寺灯雑誌】

○報恩講に向け、お仏具磨き・清掃奉仕
11／4

報恩講の前に感謝の気持ちをこめて、お仏具磨きと境内の清掃奉仕を行いました。この日は十一月とは思えないほどの暖かい日差しが差し込み、屋外での作業も気持ち良く感じられました。

毎年二回の作業で、すっかり手馴れていらつしやる皆さんに磨かれたお仏具は、瞬く間にピカピカに輝き、おかげさまで気持ちよく報恩講をお迎えする準備が整いました。

作業後は、坊守と前坊守特製のカラーライスをいただき、程良く疲れた身体に染みわたりました。

○近所の小学生が中原寺訪問

11／7

お寺のすぐ近くにある国府台小学校の2年生の生徒さんが、生活科「わたしの町、はっけん」ということで、中原寺に来てくれました。自分たちの住む町の良さを再認識し、町へのさらなる愛着を感じてもらうことが目的で、コロナの影響もあり、久しぶりの訪問でした。

初めてお寺に来た子も多く、まさに見るものすべてが新鮮！という感じでした。

「どれくらい前からあるのですか？」「お寺は何をするところなんですか？」など、緊張しながらいろいろと質問してくれる姿が微笑ましかったです。

今回のような経験を通じて、お寺を少しでも身近に感じてもらいたいです。

○三名の方が帰敬式を授式

11／11～16

築地本願寺の報恩講が営まれ、15、16日には中原寺より3名の方が帰敬式を授式され、法名をいただきました。期間中には、海外からの観光客も多く参拝に訪れ、珍しいインド様式の本堂や法要中の美しい声明や雅楽の音色に興味津々の様子で、お参りされていました。

＊太田清史様

＊盛田好一樣

＊入月正様

○報恩講が二日間にわたり勤まる

11／20、21

宗祖親鸞聖人を偲び、阿弥陀如来のご本願のおころをお聞かせいただく、報恩講を二日間にわたり、お勤めいたしました。

20日の速夜法要では、初夜礼讃偈のお勤めに続き、御伝鈔の拝読、その後、住職と前住職が法話をさせていただきました。

翌日のご満座法要では、参詣者とともに正信念仏偈のお勤め、法話は山崎龍明師より「親鸞聖人のお誕生と「教え」―深さ、広さ、明るさ―」との講題のもと、お話しいただきました。

浄土真宗において長く最も大切にされてきた報恩講を、今年も多くのご門徒さんとお勤めできる喜びを感じながら、改めて親鸞聖人のご遺徳を偲ぶご縁となりました。

○仏飯米寄進

＊錦織春海様

＊浜根健一樣



【法座・行事のご案内】

○婦人会法座

※十二月二日(土) 一時

(御文章五帖第一通 末代無智章)

前住職

○定例門信徒会役員会

※十二月二日(土) 三時半

ご欠席の役員の方はご連絡ください。

○壮年会法座

※十二月十日(日) 三時

御文章を味わう 住職

☆公開寄席

※十二月十日(日) 夕方五時

落語 三遊亭歌奴

(場所 開法会館にて) 無料

おなじみの真打三遊亭歌奴師匠をお呼びしての公開寄席です。

どなたでもお気軽にお出かけください。

○婦人会・壮年会合同年末懇親会

※十二月十日(日)

○子育てサロン

※十二月十一日(月) 十一時～十四時

○清掃奉仕

※十二月二十三日(土) 十時

○親鸞セミナー(浄土文類聚鈔)

※十二月二十三日(土) 二時

「浄土文類聚鈔」の解説の最終回です。次回一月からは「仏説無量寿経」を学びます。お気軽にご参加ください。

※元旦修正会

※一月一日(祝日) 午前八時

・おつとめ：正信念仏偈

・年頭法話

・ご流盃の儀

新年は先ず御寺参りから始めましょう。

【今月の掲示板のことば】

体が冷えていても

心が温かい人がいる